

K-ART < 6月 葛飾北斎「赤富士」 >



やさしい K-ART

2025年6月のテーマ「葛飾北斎「赤富士」ワーク」

葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」
通称「赤富士」を描きます。

<テーマを決める>

上野の森美術館で5月27日～7月6日で開催される「五大浮世絵師展」のニュースを見て、何百年も前の日本で描かれた絵（版画）を模写しながら日本文化を学びましょう。

<問いを考える>

「葛飾北斎ってどんな絵を描いた人でしょうか？」
「富士山は何色をしている？」
「この雲は何雲でしょうか？」
「富士山の上の白い部分は何かな？」
「なぜ赤富士が赤いの？」
「この絵の富士山の時間は何時くらいかな？」
「浮世絵ってなに？」
葛飾北斎が赤富士を描いた背景などお話をして、作品の奥にある状況や思いなどを感じながら富士山を描きましょう。



1. フレーム
2. キットパス
3. ベビーパウダー
4. 黒画用紙 2枚
(予め A4 サイズに切っておく)
5. 赤富士見本
6. えんぴつ
7. ハサミ
8. 固形糊

<環境をデザインする>

「絵の要素をパーツ分けした材料に色付けをしていく」

三原色で学んだお米で作られたキットパスを使って、葛飾北斎が描いた「赤富士」の模写をしていきます。絵はフォルムが上手く描けないと途端に他の子たちと比べて上手・下手という比較をしてしまいます。

きちんとそのフォルムが出せるようにパーツ化をしていくので、子どもたちの想像を超える作品になるような材料作りをしています。



＜探究活動を実践し、記録する＞

6/18 (4歳児)

赤富士の空部分を作成し、最後に重ねて作品を完成させた。

赤富士の空は、細くて少しモコモコとしたうろこ雲が描かれています。描き方を伝えただ後は個々の感覚で自由に雲を描いて行きました。少しでも描く子もいれば、しっかりと見ながら描けるだけ同じように描こうとがんばる子もいて、それぞれの個性や性格なども現れて、世界にひとつの「私の赤富士」が完成しました。みんなの作品は、葛飾北斎の赤富士を見本として、『K-ARTマジック』でしっかりと赤富士とわかる作品になったのではないかと思います。

最後に、フレームに入れた作品を見た時の笑顔やテンションの上がり方がとても印象的でした。



<探究活動を実践し、記録する>

6/18 (5 歳児)

やはり 5 歳児と 4 歳児ではこんなに違うんだなぁと実感した日でもありました。

空を描く際、5 月の 3 原色アートや前回の赤富士で習った「キットパスを横に持って側面で塗る」ということが、しっかりと言葉だけでも伝わってすぐにできる、そして全体的に塗ることができたという点では 5 歳児クラスは全体的にできていました。

人によって集中力が続く時間の長短はあると思いますが、よく集中してくれていたと思います。

見本を見ずに自分の感覚で描きたいように描くという子もいますが、4 歳児さんと比べると圧倒的に見本を見ながら描いている子が多かったと思います。作品が完成して、フレームに入れたときは、ニコニコ笑顔でとってもうれしそうなお表情をしてくれたのが印象的でした。

K-ART <6月 葛飾北斎「赤富士」> 実施報告 アンジェリカ亀戸保育園



<探究活動を実践し、記録する>

6/4 (4 歳児)

赤富士を楽しみにしてくれていた子たちも、教室に入ってきて実際に見本を目にすると「おどかしそう!」「できない〜」と言っていました。いざ始めるとしっかりと楽しんでくれたのが印象的でした。今回は、しっかりと話を聞いて色塗りをしたり、描くことができる子、自分がしたいことを表現する子など、個性がいろいろと出ていました。

単なる模写ではなく、導入で葛飾北斎のこと、赤い富士山のことを聞いた後、塗る→雪を描く→黒い点で木を描く→魔法の粉→と進み、最後に見本に重ねてみると、本物の中に自分の作品が入り込んで、驚いたり喜んだりしている姿がとてかわいらしかったです。



<探究活動を実践し、記録する>

6/4 (5歳児)

葛飾北斎のお話を聞いた後に、塗っていく工程を見ていて「さすが年長さん」と思うところがたくさんありました。「ゆっくり・やさしく」という声で丁寧にできたり、見本を見て忠実に再現しようとする子がいったり、工程工程でよく集中して製作してくれていたと思います。人それぞれ集中するポイントが違うというところも面白かったです。

特に、自分が作った赤富士パーツを重ねた時に、「わぁ、このまま持って帰りたい」という子がいったり、「すごい、本物みたい」という子がいったり。見本と自分が作った赤富士パーツを見比べながら、「うーん、ちょっと違うなー」と比較して何かを学んでいる様子も興味深かったです。